

## V 現 職 教 育

### 1. 研究主題・副主題

# 学び合って のびゆく子の育成

—主体的・対話的で深い学びをめざして—

### 2. 主題設定の理由

今年度も引き続き、研究主題を「学び合って のびゆく子の育成」とした。わたしたちは、一人一人の児童が友達の考えを認め、新たな発見をし、自分の考えの不足に気づき、お互いが関わり合いながらよりよい考えを見つけて「学び合う」姿を日々求めている。さらに「のびゆく子」とは、「自分で課題を見つけられる子」「進んで課題に取り組む子」「生活経験や既習の内容を生かす子」「粘り強く学習に取り組む子」ととらえてきた。

本校の児童は、活動的でエネルギーにあふれている。一方で興味のあることには意欲的に取り組むが、粘り強く取り組む姿勢が十分とはいえない。友達と協力したり、相手の立場を考えてよりよい行動をしたりすることが苦手だという面もある。

そこで、29年度は児童一人一人に友達と協力したりお互いのことを認め合ったりしながら道徳性や道徳的実践力を育成していく必要があると考え、道徳科を中心とした研究を進めることにした。副題を「主体的・対話的な学びを通して」と設定し、「問題意識をもつ」「教材をもとに話し合う」「自分自身を見つめる」「思いをあたためる」という授業の基本スタイルを意識しながら授業研究を行った。その結果、児童は問題意識を持ちながら考え、自分自身の生き方についてふり返ることができるようになった。この研究から道徳科の授業研究で得た手立ては他教科にも繋がっていると確信した。

30年度はこれまでの研究の成果を他の教科に広めようと副題を「主体的・対話的な深い学びをめざして」とし、さらなる授業研究に取り組んだ。「互いの考え方を交流し合い、集団の中で思考を練り上げたり、自分の考えを深めたりしていくという姿＝深い学びの姿」と捉え、児童の思考を促したり、根拠に基づいた考え方を持たせたりするための深めや問い返しの発問について研究を行った。この研究から児童は興味や関心をもって学習課題に取り組み、学びを深めることを生き生きと楽しむようになった。しかし、授業を行った教師からは児童のつぶやきや発言から全体の思考を深めていくにはどうしたよいか、深めの発問や問い返しはどうすればもっと有効に働くのかなどの課題が出された。

今年度は昨年度の研究で出された課題に向き合いながら、「主体的・対話的で深い学び」をめざして引き続き授業研究を進めたい。また本校で長年大切にされてきた「授業の基本スタイル」を軸にしなが、全職員が足並みを揃えて授業実践を行っていく。「児童が主体的な学びをするための工夫」、「児童が対話的な学びをする工夫」を重点にしなが「深い学び」を追求することで、上記の研究主題に迫りたい。

### 3. 主題のとらえ

#### 「学び合う」

友だちの考えを認める

新たな発見をする

自分の不足に気づく

よりよい考えを見つける

#### 「のびゆく子」

自分で課題を見つけられる子

進んで課題に取り組む子

生活経験や既習の内容を生かす子

粘り強く学習に取り組む子

## 4. 研究の仮説

副題を「主体的・対話的で深い学びをめざして」と設定する。本校では「主体的な学び」とは、学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って、粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ、振り返り、次の学習につなげることができるような学びと捉える。「対話的な学び」とは、自分で考えたことを友達と議論したり意見交換したりすることであらたな考え方に気がついたり自分の考えをよりよいものとしたりするような学びと捉える。「主体的な学び」をすることで、課題意識を持ち、自己を見つめ、自分自身の考えをもち、粘り強く取り組もうとするであろう。また、「対話的な学び」をすることで、友達の考えとの共通点や相違点が明らかになり、友達とのかかわりから考えを深めることができるであろう。

主体的・対話的で深い学びのある授業にするために、次のような重点を設定する。

## 5. 研究の重点

### 重点1:主体的な学びをするための工夫

- ①興味や問題意識を持つことができるように導入の工夫
- ②ねらいを明確にし、問題意識をしっかりとらせる工夫
- ③必要感をもたせる工夫
- ④課題解決へ見通しもたせる工夫
- ⑤自分の考えをもたせる工夫
- ⑥まとめやふりかえりの工夫

### 重点2:対話的な学びをするための工夫

- ①考えたくなる発問の精選（問い返し・深めの発問）
- ②表現活動の工夫
- ③書く活動の工夫
- ④学習形態の工夫（ペア・グループ学習）
- ⑤資料提示の工夫

場の設定

このような授業づくりをすることで、「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる。

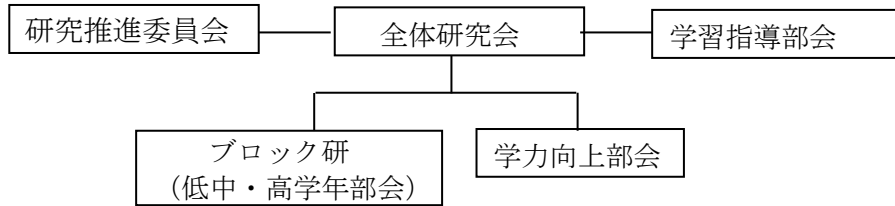
## 6. めざす児童像

副題の「主体的・対話的な深い学びをめざして」を低中高学年でそれぞれの発達段階を考え、めざす児童像を設定した。このめざす児童像に迫るために重点1, 2を意識した授業展開を構成し、指導していく。

低学年	友だちの意見をよく聞き、自分の考えを表現する子
中学年	自分と比べながら聞き、相手意識をもって伝え合う子
高学年	言葉や図を使って表現し、よりよい考えをみつけようと話し合う子

## 7. 研究の進め方

### (1) 研究組織



#### ・学習指導部会

学力向上を含め、共通実践など校内の学習指導全般について協議し、提案する。

#### ・研究推進委員会

研究の方向・内容・進め方・研究構想図などの原案を作り、全体研究会および低・高部会に提起していく。

#### ・全体研究会

研究の方向・内容・進め方や研究授業について協議し、学校研究についての共通理解を図る。

#### ・ブロック研(低中・高学年部会)

授業を中心に実践研究を図る。

#### ・学力向上部会

各種調査（全国学力調査・県学力調査など）を分析し、対応を検討する。

各教科の知識・技能の習得を図る。

### (2) 方法

- ① 主題・副題を受けて、各部会で「めざす児童像」を確認する。
- ② 国語・算数で研究を進める。（担当教科が限られている場合や特別支援学級は他教科でもよい）
- ③ 全員1回以上、研究授業を行う。
- ④ 低中・高学年各1回（全体で2回／5月・10月）の全体研究授業を設定し、共通理解を深めながら研究を進める。全体研以外はブロック研とする。
- ⑤ 重点1.2を意識した授業の基本スタイルを作成し研究の方向性について共通理解を図る。
- ⑥ 先進校視察の報告や講師を招聘した学習会を行う。

### (3) 研究授業計画

	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月
低学年	船登(全)	沖田 角谷			竹田	松本	遠田
高学年		中村	林	岡部	飯利	辰巳(全)	吉田